

2018年9月20日

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 中東研究センター
2018年度国際シンポジウム

特別セッションのご案内

平素は格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本日は、来る11月28日に経団連会館での開催を予定しております、日本エネルギー経済研究所中東研究センターの2018年度国際シンポジウム特別セッション（兼 第2回特別会員限定・情勢分析報告会）について、ご案内申し上げます。

湾岸地域においては、イランとサウジアラビアの関係悪化や主導権争いが長期化しています。その影響は二国間関係のみならず、例えばイエメンやシリアなど周辺国における内戦にも飛び火しています。この背景には、地域秩序の主導役であった米国の影響力が徐々に低下していることや、「アラブの春」以降の中東諸国において国家の統治力が弱まっている国が増えていることが挙げられます。加えて、カタール断交問題のように、従来の同盟国間でも安全保障をめぐる認識の違いによって亀裂が深まっており、域内の大国は自国に有利となる新たな秩序を構築すべく、積極的に外交的・軍事的・経済的な攻勢に出ています。

そうした中で注目されるアクターの 하나가、UAEです。これまでもドバイを中心に経済面でのプレゼンスは目立っていましたが、昨今はカタールとの断交やイエメン内戦への地上軍の展開、さらにはエリトリアやソマリアといった「アフリカの角」への軍事基地展開など、政治的・軍事的な行動が目立ちます。サウジアラビアの盟友としてその陰に隠れがちですが、中東湾岸諸国におけるサウジアラビアの積極的な域内戦略を時に主導しているのは、むしろUAEなのではないかと囁かれるまでになっています。中東の新たな地域秩序をめぐる綱引きにおいて、果たしてこの湾岸の小国の政策が中東に安定をもたらす第一歩になり得るのか、注目を集めています。

本年度の国際シンポジウムの特別セッションにおきましては、日本エネルギー経済研究所中東研究センターの堀抜功二主任研究員から地域大国を目指すUAEの戦略に焦点をあてた報告を申し上げます。次いで、米国戦略国際問題研究所（CSIS）シニア・バイス・プレジデント ジョン・オルターマン博士、ジョージタウン大学カタール校教授、ヘルト・ノンネマン博士という中東情勢の専門家をお迎えし、中東湾岸地域の現状と未来に関して、活発な議論を展開できればと考えております。

皆さまにおかれましてはご多用の折とは存じますが、奮ってご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
中東研究センター長
田中 浩一郎